

10月の県内景況調査結果の概要

1. 主要指標の前年同月比DI値の動き

2年10月のDI値は8指標中、6指標が上昇。特に「売上高」「収益状況」については2桁の大幅な上昇。「雇用人員」は横這い、「取引条件」については下落となった。6月以降窺われた改善傾向に先月、若干の翳りが見受けられたが、今月はまた持ち直しの動きが見られた。

2. 県内中小企業の景気の現状

建設業関連では需要が堅調であり、自動車販売整備業においても今年度初の前年度比プラスとなり、需要が好調であった様子。また新型コロナウイルス各種支援策の効果もあり、受注数の増加や人出の増加に伴い、個人消費の上向きなど明るい報告も多くの業種から寄せられた。

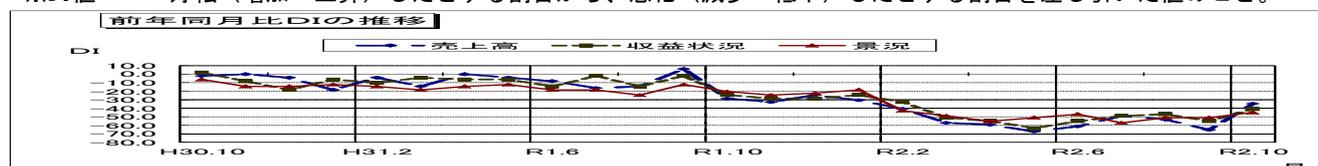
一方、依然として続く原材料高や労働力問題に加えて、長引く新型コロナウイルスの影響により厳しい状況が続いており、先行きを不安視する声も多くの業種から寄せられた。

景気は米中貿易摩擦や日韓関係の悪化など緊迫する国際情勢、また我が国をはじめ世界中で出口の見えない新型コロナウイルス問題など国内外経済の下振れリスクが顕著化してきており、一部に持ち直しの動きがあるものの景気の低迷が続いている。県内中小企業においても、更なる景気の悪化に備える必要がある。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移

	R1 10月	11月	12月	R2 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	前月比 増減
景況	-20.4	-24.5	-22.4	-18.4	-42.9	-49.0	-55.1	-51.0	-46.9	-57.1	-51.0	-51.0	-44.9	6.1
売上高	-28.6	-32.7	-24.5	-30.6	-40.8	-57.1	-59.2	-67.3	-61.2	-49.0	-53.1	-65.3	-34.7	30.6
収益状況	-24.5	-28.6	-28.6	-24.5	-32.7	-51.0	-55.1	-63.3	-55.1	-49.0	-46.9	-55.1	-40.8	14.3
販売価格	8.2	10.2	10.2	12.2	8.2	2.0	-12.2	-2.0	-2.0	0.0	-6.1	-10.2	-8.2	2.0
取引条件	-6.1	-8.2	-4.1	-4.1	-14.3	-20.4	-30.6	-26.5	-18.4	-22.4	-18.4	-12.2	-18.4	-6.2
資金繰り	-12.2	-12.2	-16.3	-18.4	-26.5	-32.7	-40.8	-40.8	-36.7	-30.6	-20.4	-24.5	-18.4	6.1
設備操業度	-8.2	-8.2	-4.1	-2.0	-8.2	-10.2	-14.3	-14.3	-22.4	-16.3	-12.2	-18.4	-14.3	4.1
雇用人員	-6.1	-2.1	0.0	-2.0	-6.1	-12.2	-18.4	-8.2	-10.2	-10.2	-10.2	-6.1	-6.1	0.0

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。



[景況関連の報告]

【製造業】

<食料品>

1. 味 噌・新型コロナ感染の再拡大で外食需要が落ち込み、米の需給が緩む見通しが一段と強まった。主要原材料の価格に影響が出てくる。コロナ禍の状況の変化に注視したい。依然として厳しい状況は続いている。
2. 漬物・漬物製造業では前月と変わらず取引先により好不況が顕著である。特に土産物、飲食店等を取引先としている業者は売り上げの落ち込みが激しい。作業時間の短縮も行われている。農家はニンジンの種蒔きが終わりハウスの設営にかかっているがコロナの影響で人手不足の農家も出てきている。

<繊維・同製品>

3. 縫製・新型コロナウイルスの影響と断定できないまでも、製造業の景気悪化が徐々に現れ、今後の景気対策が見えない現状が続いている。景気冷え込みの長期化に備え、引き続き企業体力堅めに注力している。生産については、来期に向けての製品備蓄を開始し、来年初めまで在庫増となる。
4. 縫製・新型コロナウイルス感染症の景気への影響。

<木材・木製品>

5. 製材・住宅の着工数が低迷しており、全体的に厳しい状況が続いている。一方で、林野庁がコロナ対策で実施している非住宅向けの補助事業により、一時的に好転している事業所も見られる。
6. 木材・昨年10月は消費税が8%から10%にあがり経済的に打撃を受けるかなと思ったところ、それ以上の新型コロナウイルス感染症が訪れ消費税どころでなくなった。また感染症が治まったかなと思えば、また波が訪れる。徳島県は感染症にかかった人の数こそ他府県と比較すると少ないが、経済的な影響は他府県以上のような。何せ一日も早くワクチンや抗体治療が画一されるよう願うだけだ。今後当分の間、不景気気分が抜けない。
7. 木材・原木丸太の入荷回復、製材所からの注文も増えた。原木丸太の入荷をもう少し期待したい。冬場に向けてストックも必要。

<印 刷>

8. 印 刷・10月に入りイベント関係は依然低調なものの新聞折り込みのチラシ関係は少し戻ってきた模様。コロナ禍のなか、耐え凌ぐ時でもあり、あたらしい変化をする時でもあり、社会が大きく変化する中での勝負所でもある。苦しいときにこそ会社やその人の真価が問われるのが世の中だ。スピード、価格、品質、やる気に研ぎをかけて毎日の仕事に取り組んでいきたい。
9. 印 刷・コロナ禍の中、最悪であった月に比べると良くなってきたが、前年同月に比べると売上げ、収益とも良くない状況が続いている。毎年11月・12月は比較的売上げ、収益とも安定した月ではあるが、今年は厳しい月になりそうである。雇用調整助成金がストップする前に自力で利益を出せる施策がないか頭を悩ます日々が続いている。

<窯業・土石製品>

10. 生 コ ン・10月の出荷数量は、対前年同月比横這いであった。要因としては、出荷数量が前年同時期と比較して、官民工事とも当初の計画通り出荷が進み新規工事発注も例年並みを維持している。懸念事項としては、依然として運転手の高齢化と人材不足が深刻な問題であり、今後の緊迫した課題として対応が迫られている。
11. 生 コ ン・10月は昨年同月と比較して約13%増加。新規特需工事が本格的に始動し、出荷量の上乗せが期待できる状況になってきた。ただ今年度は全体的に出荷量はゆるやかに減少していくと予想している。

<鉄鋼・金属>

12. 鉄 鋼・感染症の影響が残るものの、景気動向は低調ではあるが緩やかに持ち直しつつあると言われている。業況の大きな動きはなく、設備操業度などは概ね横ばい状況で推移しているが、一部では弱い動きも見受けられるところである。今後の景気動向が注視される所であり、景気の持ち直しの動きが続くことが期待される。
13. ス テ ン レ ス・新型コロナウイルスの感染拡大（第三波）を警戒しつつ感染予防対策を継続しながら、企業活動を展開している。国内状況については、大手を中心に徐々に回復傾向にあるが全体的には様子見の状況である。海外での営業活動については、隔離措置の緩和により徐々に再開しつつあるが、米・欧州での感染拡大が懸念されており、コロナ禍以前と同様までの回復はまだまだ見通しが立たない状況にある。

<一般機器>

14. 機械金属・新型コロナウイルスの感染症は、依然としてその影響が継続しており、業況の一部に持ち直しの動きが見られている一方、営業活動の停滞等により売上高や引合いなどに、引き続き厳しい状況も見られ、景況感の悪化が懸念される。加えて、熟練技術者をはじめ従業員の確保難、原材料価格その他の経費の増加なども、直面する経営上の課題として見受けられ、先行きの見通しが不透明で、将来に対する不安感が拭えない状況である。

【非製造業】

<卸売業>

15. 食糧卸・業務用の回復が見込めず、家庭用スーパー特売等での対応しか手段が無い状況。

<小売業>

16. ショッピングセンター・10月の売上高の前年対比は全店計98.5%（既存店102.1%）、客数93.1%（既存店96.5%）だった。昨年10月の営業28店舗に対し、今年は退店が5店舗、改装のため1カ月休業が1店舗、1～30日まで休業して31日オープンが2店舗という状況のもとでの数字で、実質20店舗による営業での数字だ。営業店舗が8店舗も減ったのに98.5%は上出来きだと思うが、それは核店舗およびナショナル・チェーン等の売上構成比の高い店舗が100%を超していることに因るもので、組合員の店舗だけでは87.5%（既存店99.1%）となる。11月の中旬に組合員店が1店舗オープン予定で、12月上旬にニトリがオープンすれば、6月中旬より行なってきた改装も完了となる。
17. 量小売業・好天に恵まれ、表替中心に一般の仕事があった。各地域の秋まつり等も自粛のため、関係の仕事は少ないように思われる。営業用（ホテル、飲食店関係）の仕事はたいへん少ない。
18. 機械器具・来年に向けての商材確保に困惑しそうな流れあり。生産遅延の情報しか入ってこない。機会損失を懸念している。
19. 各種商品小売業・Go Toイートのお食事券を買い求める人が増えて人通りは多くなってきたが、売上に結びつけるのは難しい。
20. 電気機器・コロナ禍で合展等、積極的な販売促進策は控えているので、全般的に厳しい状態である。そんな状況のなかテレビの買換需要が増えてきている。

<商店街>

21. 徳島市・飲食店では人手が戻りつつあるようだが、前年同月に比べるとかなり少ないようだ。
22. 徳島市・昨年10月が増税で売上げが落ち込んだため、売上高自体は昨対ほぼ同じぐらいではあるが、依然としてコロナの影響は大きく人の出が悪い。

23. 阿 南 市・観月会もハロウィンイベントも中止。

24. 鳴 門 市・先月から大きな変化はなく、商店街のイベントは全て中止になっている。売り上げはみなさん厳しいようだ。家具業界は6月以降、前年よりいい店が多いようだ。

<サービス業>

25. 土木建築業・徳島河川国道事務所の令和2年度の去年との比較については、河川は前年度に比べ、改修事業費が約85%になり、業務量も去年より少なくなったと思われる。道路は前年度に比べ新直轄費が85%と減になったが、一般道の事業費が新直轄の減額分増える。交通対策課は無電柱化事業が去年より3倍になり、インフラ（NTT、水道、電力、ガス等）の調整が大変になっている。道路管理課も去年に比べ、1.25倍の事業費（橋梁補修・耐震・補強）が多く発注され、忙しい。徳島事務所全体では、去年に比べ、20億増が予想され、忙しくなるのでは？コロナ対策で6月から、通常に在宅勤務を取り入れた変則シフトで、業務を進めているが、働き方改革との兼ね合いで、業務効率は落ちている。組合は契約人数12名のところ、16名の担当技術者を配置し、（一般かぜ）発熱等の際、様子見の休暇が増えるので、増員し多少でも業務に支障の無いようにしている。10月の動向としては、工務課は新直轄の工事費は減となったが、業務自体は工事の分割発注等があり、件数としては去年と変わらない。一般改築工事が増えたため担当箇所（新直轄以外の一般道）により忙しくなったのでは？道路管理課は先月と同様、橋梁補修等が去年より多く発注され、当該業務は忙しくしている。交通対策課は先月と同様、共同溝の整備事業が多く予定されているのでそれなりに忙しい。働き方改革に伴い、残業時間は官側の指導等により激減したが、最近、以前ほどではないが30時間/月を越す技術者が増えてきている。残業が多くなるようであれば、官側に申し出、休暇等で対応予定。

26. 自動車販売整備業・登録車（普通車）の新車登録台数は対前年同月比38.2%の1,372台、中古車は26.4%の532台、合計では34.7%の1,904台であった。軽自動車の新車登録台数は対前年同月比23.3%の1,102台、中古車-6.8%の397台、合計は13.6%の1,499台である。登録車・軽自動車の登録台数合計は対前年同月比24.5%の3,403台と増加。登録車、軽自動車ともに今年度初めて前年度比がプラスとなった。登録車に関しては新車、中古車ともに大きく伸びて34.7%増。軽自動車に関しては中古車が6.8%減となったが、トータルでは13.6%増。全体では24.5%増となった。二輪車（小型二輪に限る）だけで見ると、この半年間で大きな減少はなく、昨年度とほぼ横ばいを保っている。全国的にも二輪車の需要が堅調であるようだ。3密を避けて移動したいというニーズの拡大も販売を支えているのかもしれない。収益情報とみている継続検査の台数は、登録車は11.3%増、軽自動車は7.7%増という結果となった。

27. 旅 行 業・Go Toキャンペーンなどで個人の旅行は増えているようだが、団体旅行は相変わらず少なく、あまり良い状況とは言えない。

28. 広 告 業・イベント関係は動いていないので未だ低迷。公共工事や商業施設の受注は元に戻りつつある。

29. ビル管理・近年、取引条件がほとんど変化しない中、最低賃金の引き上げが続いている。(H25年・666円→R2年・796円)。このような急激な最低賃金の引上げに伴う影響が確実に現れてきている。更に、働き方改革への対応、労働需給の逼迫、先般成立した社会保険(厚生、健康)改革法の施行に向けての対応など多くの課題に包まれている状況だ。加えて、新型コロナウイルス感染症の拡大回避の影響が長期に及んでいるホテル分野のメンテナンス業務においては、経営や人材確保、業務遂行方法などについて影響があり、事業の縮小による減収や従業員の休業補償などが重い課題となってきている。また、病院や高齢者利用施設等においては、管理者と連携し、細心の注意の下で業務を遂行しているところだ。全体としてみると、10月分は前年同時期と比べ、新型コロナウイルスの影響のケースを除き、大きな変化はない。しかしながら今後、多様で深刻な影響が現れてくることも想定して事業活動に当たっているところだ。

<建設業>

30. 建設業・公共工事は地域的な格差があるが、全体で前年に比較して増加している。
31. 電気工事業・新設住宅口数は174件であり、対前年比59.7%と減少した。
32. 板金工事業・新築及びリフォームの発注も回復してきて全体に忙しくなっている。特にリフォームに関しては問い合わせが増えてきた。
33. 鉄骨・鉄筋工事業・若干操業度が低下している工場があるものの、今月も前月とほぼ変わらない。

<運輸業>

34. 貨物運送業・取扱品目により異なるが、全般的には先月より低調に推移している。また軽油単価は前月平均比で1円半ばの安値となり、2ヵ月連続の値下りで、多少の利益確保に寄与している。
35. 貨物運送業・先月に引き続き、コロナウイルスによる売上への影響は大きく、徐々に改善傾向の荷はあるものの、元のように回復するには時間を要するとの声が多い。長距離便の帰り荷の回復には、まだまだ先が見えない厳しい状況が続いているとのことである。